

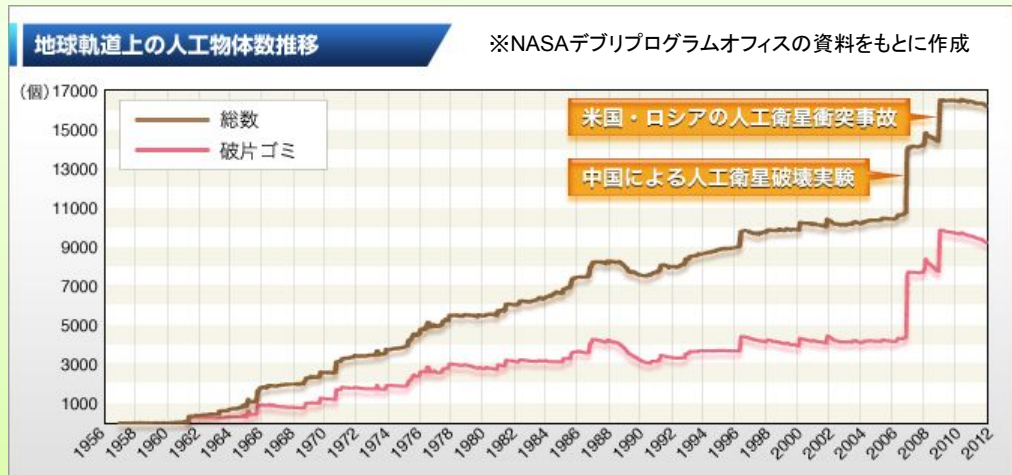
宇宙に係る外交政策の推進

平成25年6月
総合外交政策局

宇宙に係る外交政策の推進

1 背景

- **宇宙利用国の拡大及び宇宙技術の進歩**
 - 衛星保有国：50か国以上
 - 打上げ国：10か国
- **民生・安全保障の両分野における利用の拡大**
 - 衛星測位、通信・放送、リモートセンシング
 - 衛星による情報収集・早期警戒、ミサイル防衛
- **宇宙空間の脆弱性とリスクの増大：**
 - 宇宙空間の混雑化
 - **スペースデブリ（宇宙ゴミ）の増加**
 - 衛星同士の衝突
 - 中国による衛星破壊（ASAT）実験



2 具体的取組

1. 宇宙空間活用に関する国際的な規範づくり（民生・安全保障両分野）

- EU提案の「**宇宙活動に関する国際行動規範**」策定に向けた国際的な議論に積極的に参加（2013年に複数回の多国間専門家会合を開催し、署名のための外交会議開催を目標。）
 - 衛星衝突、スペースデブリのリスク低減
 - ASAT実験・行為の制約
 - 通報・協議メカニズム（透明性向上・信頼醸成措置）
- ◆ 我が国はアジア諸国を始めアウトリーチを積極的に実施。
- 国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）において、民生分野を中心とする**宇宙活動の長期的持続可能性**についてのベストプラクティス・ガイドラインづくりに積極的に貢献。**堀川COPUOS議長**（任期：2012年6月～2014年6月、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）技術参与、外務省参与）と連携。
 - 宇宙活動の長期的持続可能性ワーキンググループ：（ア）地上における持続可能な開発のための持続可能な宇宙利用、（イ）スペースデブリ、（ウ）宇宙天気、（エ）宇宙運用、（オ）宇宙状況監視、（カ）規制体系、（キ）新規参入者に対するガイドラインの7つの分野のベストプラクティス集やガイドラインを取りまとめる。

2. 宇宙をめぐる国際協力の推進

●ODA等も活用しつつ、我が国の衛星・地上設備を新興国に展開し新たな市場を創出。

※世界市場規模の展望:7兆円(2005年)→56兆円(2025年)

✓これまでの実績の例

- ・トルコ政府に総理や大臣レベルで働きかけを実施し、通信放送衛星システムの受注を獲得。
- ・ベトナムによる地球観測衛星2機と地上の関連施設の整備等に円借款の供与が決定。

●地球規模の課題への取組に貢献（気候変動、防災、森林保全・違法伐採対策、資源・エネルギー等）。

➢「ASEAN防災ネットワーク構築構想」の推進。

➢宇宙技術を活用したODAの実施。

✓これまでの実績の例

- ・アマゾン森林保全・違法伐採防止のための地球観測衛星(ALOS)衛星画像の利用プロジェクト(ブラジル)
- ・衛星情報を活用した森林資源管理支援プロジェクト(インドネシア)

●バイ・マルチでの国際協力及び対話の推進。

➢宇宙に関する包括的日米対話を立上げ、2013年3月に第1回会合を東京で開催。

➢カナダ、英国及びEUとの宇宙協力を今後推進。

➢アジア太平洋宇宙機関会議(APRSAF)を通じた「宇宙外交」の推進

3. 宇宙安全保障の確保

●宇宙への自由なアクセスの確保、他国の宇宙活動の透明性確保、安全保障分野での一層の宇宙開発利用。

➢安全保障分野における日米宇宙協力を推進

✓日米安全保障協議委員会(「2+2」)(2011年6月)において、宇宙状況監視(SSA)、宇宙を利用した海洋監視をはじめとする具体的協力分野を特定。

※「閣僚は、安全保障分野における日米宇宙協議及び宇宙状況監視、測位衛星システム、宇宙を利用した海洋監視、デュアルユースセンサーの活用といった諸分野におけるあり得べき将来の協力を通じ、日米二国間の宇宙における安全保障に関するパートナーシップを深化させる最近の進展があったことを認識した。」

➢安全保障分野での宇宙利用の推進

- ✓SSAの実施態勢の構築に向けた検討
- ✓準天頂衛星システム(QZSS)の安全保障分野での利用拡大の検討
- ✓情報収集衛星4機体制の維持、機能の拡充・強化